

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成30年度 第2回伊達市放課後子ども教室運営委員会議		
議 題	議事 ① 平成30年度伊達市放課後子ども教室事業実績について（経過報告） ② 平成31年度伊達市放課後子ども教室の事業について		
開催日時	平成31年1月23日（水）18：30～19：40		
場 所	伊達市役所第2庁舎会議室1		
出席委員	小林浩路 委員長、勝木真弓 副委員長、上埜幸喜 委員、葛西正敏 委員、武者ますみ 委員、山木広幸 委員、栗橋司朗 委員、日下しのぶ 委員、森崎眞由美 委員（計9名）		
	所管部課名	教育部生涯学習課	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【審議会の概要】</p> <p>1. 開会（事務局：生涯学習課長）</p> <p>2. 教育部長挨拶</p> <p>3. 協議</p> <p>（1）平成30年度伊達市放課後子ども教室事業実績について（経過報告）</p> <p>（2）平成31年度伊達市放課後子ども教室の事業について</p> <p>【レジュメに基づき事務局より説明】</p> <p>【質疑・意見交換】</p> <p><input type="checkbox"/> 委員 伊達西小学校の子ども教室登録児童者数は、昨年度と比較して増加していますか。</p> <p>●事務局 登録児童数は約70名程度となっており、昨年度と比較してほぼ同数となっています。</p> <p><input type="checkbox"/> 委員 伊達西小学校の登録児童数の期待数はどれくらいだったのですか。</p> <p>●事務局 初年度である昨年度の登録児童数は、全児童数3割程度を見込んでおりましたが、実際には、2割程度の登録となっています。</p> <p><input type="checkbox"/> 議長 第1回の運営委員会にて「子ども達の移動における安全性について」の質問が出ていた「長和小学校での放課後子ども教室の活動場所」については、その後どう</p>			

なりましたか。

●事務局

事業開始当初は、長和小学校に隣接している長和地区コミュニティセンターふれあい館にて事業を実施していました。前回の委員会において、「低学年の児童が悪天候時において移動する際、天候や移動経路で道路を横断するなどの安全面が懸念される」との意見があったことから、その後学校と協議し平成30年9月から学校内の特別教室等を事業で使用できることとなりました。現在、学校行事を優先し、可能な限り学校内にて学習の日・体験の日ともに実施しています。

□議長

長和小学校では、授業への支障などはありますか。

□委員

授業で使用していない特別教室等を利用して事業を実施されていますので、特に支障はありません。

□議長

全体として、子どもたちの学習の日や体験の日の取り組みの様子や、参加状況はどういった感じですか。

□委員

学習の日に用意しているプリントは学力別に分けておらず、学年で同じプリントを使用しています。理解力の程度によって、こなせるプリント枚数に差が出ます。教育委員会の指導室において用意いただいたプリント以外にも、より平易な内容のプリントを作成し使用しています。体験の日については、楽しそうに参加していますが、やはり高学年になると、習い事などから参加率が低いのではと感じています。「勉強は家でもできるから、体験の日だけ参加している」と話す子どももいますし、高学年であれば自己判断で参加を決めているのではと感じています。

□委員

両校の体験の日に見学に伺ったことがあります。学校が違うので、比較するものではないですが、長和小学校の子どもたちは、目がきらきらとさせていたのが印象に残っています。やはり人数が少ない分、体験の日を持ち込んだ道具などに触れる機会が多いことも理由のひとつかなと感じました。伊達西小学校では、男子が賑やかでしたが、学校の授業が終わった後、わざわざ集まって取り組むこと自体が大変なことなので、事業に対して真摯に向き合うことも大事ですが、そこまで求めずに、参加すること自体に意味があるのではと感じました。

□委員

長和児童クラブに通っている児童に、子ども教室の感想を聞いたところ、「体験の日は楽しい」とのことです。また、子ども教室が学校内で実施されることになり、子ども教室と児童クラブ間の送迎がしやすくなりました。ただ学習の日については、子ども教室でプリント学習した後に、児童クラブでも学校の宿題に取り組むことになるため、低学年のなかには、ぐったりと疲れている児童もいました。また、保護者のなかには、子ども教室に年度途中からは参加出来ないと思っている方もおり、途中からでも参加できることを伝えました。

□委員

ほしのご児童クラブでは、確かに子ども教室を楽しみ過ぎている児童もいると感じます。学習の日は、長和小学校と同様に、児童クラブで学校の宿題に取り組むため、疲れている様子の児童もいますが、「疲れているなら、家に帰ってから宿題に取り組んだらどうかな」といったように声掛けをしています。児童クラブにて一応の勉

強時間を設けてはいますが、強制ではありません。ただ、家庭学習が本格的に始まった学年があり、その学年の児童が一所懸命に取り組んでいる姿を見て、勉強を促すといったこともしております。また、本日は、伊達西小の子ども教室実施日で「ヒップホップ体験」の日でしたが、昨日のうちから楽しみにしている児童がいたり、本日のお迎え後に楽しそうに体験の様子を語ってくれたりする児童もいました。

□議長

放課後子ども教室新規校を新設するには、ボランティアスタッフなどの人材発掘が不可欠ですが、厳しい状況と伺っています。学習プリントの種類についてはどのように考えていますか。

●事務局

現在は、教育委員会指導室で用意いただいた学習プリントを使用しております。プリントの種類などについて、指導室と相談しプリント学習の進め方を考えたいと思います。

□委員

プリントの枚数、種類が増えると、解答をする人手が足りない状況になってしまう難しさがあります。指導室で用意された学習プリントのなかには、『問題を作成しましょう』といった種類の複数の回答があるような、採点が難しい問題は除外しており、使用できる問題が少ないプリントもあります。量が足りないようであれば、百マス計算を自作するなどしているため、事業には人手が必要と思います。

●事務局

放課後子ども教室事業においては、人材確保が最大の課題となります。

□委員

この事業の学習の日の目的は、学力向上ではなく、基本的な学習習慣を身に付けさせることですが、参加するのであれば前向きに取り組んで欲しいですし、勉強が得意でない子どもは、得意にしてあげたいと思います。漫然とプリントを配付して、丸つけて終わりといったやり方はしていませんが、目的と実際の運営のギャップや人材の確保などについても、運営の難しさを感じます。

□委員

子どもはプリントを解いて、丸をもらえれば嬉しいと思います。ただ、理解するのが厳しい子どもにとっては、丸をもらうことは難しいことですね。

□委員

なので、比較的取り組みやすい問題を作成するなどして対応しています。

□委員

漢字の書き取り問題はいかがでしょうか。

□委員

漢字の書き取り問題は、書き順や「止め、跳ね」など、正誤の判断が難しいため○付け作業は難しくなります。

●事務局

プリント学習として、理解力が高い子どもと、そうではない子どもとの差が明確になってしまいます。前者は、どんどん進みますが、後者は遅遅として進めない、焦りが生じてしまう、ますます手が進まなくなってしまう、場合によっては諦めてしまう。環境として、子どもたちをレベル分けして事業ができれば、集中力をもって取り組むことも可能なのかもしれませんが、事業の主たる目的は学習習慣を身に付

けることです。目的を達成する手段として、何が良いのか考える必要はあります。

□議長

伊達市以外の子ども教室の取り組みの状況はどのような感じですか。

●事務局

近隣市町では、豊浦町、登別市が事業実施しています。豊浦町は、NPO法人へ委託して運営しており、登別市は行政側がほとんどタッチせずに、学校単位でボランティアが運営していると把握しております。

□委員

基本的なことの確認になるのですが、子ども教室は学力の向上をメインの目的として運営されているのでしょうか。

●事務局

基本的な部分は、「放課後の安全安心な居場所づくり」で、その中で様々な体験などのメニューを実施することになります。メニューは特に決まっておらず、それぞれの子どもの教室でコーディネーターが中心となって企画し、事業を討実施することになります。学習がメインの目的ではありませんが、伊達市で実施している2校の放課後子ども教室においては、学習の日というメニューを設けることにより、結果として学力向上が図れればと思っております。

□委員

たとえば、フラッシュ暗算のようにゲーム性をもたせた取り組みをしてはどうか。フラッシュ暗算であれば、答えは○、×の2択ですし、子どもも集中力をもって取り組むことができるのではないのでしょうか。

●事務局

ゲーム性をもった学習ということで検討したいと思います。

4. 閉会（小林委員長）